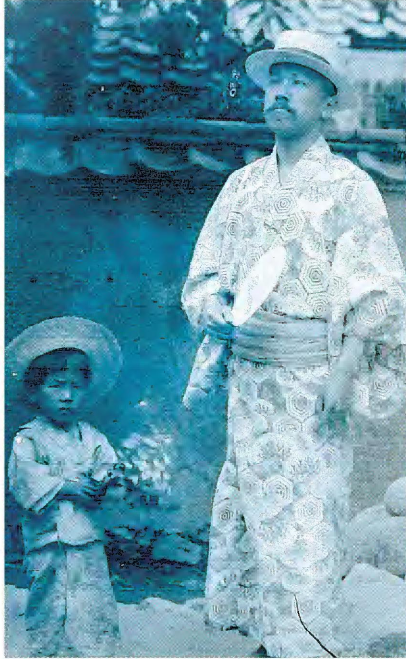


明治～昭和の備前・三石地区

暮らしし活写ガラス原板

明治末期から昭和初期までの備前市三石地区の風景や人物を捉えたガラス写真原板250枚が市立三石公民館で見つかり、地元三石郵便局長だった桜間謙次さん(故人)の撮影であることが、三石地区の街で知られる同地区の約100年前の街並みが活写されており、地域の姿や暮らしを知る貴重な資料。13日、三石運動公園体育館で開かれる写真展「三石写真美術館」で公開される。

祖父撮影250枚 孫の桜間さん確認



原板からプリントされた人物写真(撮影時期は不詳)

原板は昨年10月、同公民館のロッカーの上にあった木箱に取められているのを職員の大山陽一さん(58)が整理して発見。1枚ずつ和紙で包んであり、名刺大くはがき大、割れたものもあったが、地区の写真ク

原板と復元写真など あすから展示



見つかった原板を見て懐かしむ桜間直樹さん(右)と備前市立三石公民館で

ラブが鑑定し、約150枚が写真に不鮮明ながら復元

「アチ橋」「四列穴門」の遠

できるとわかった。写真には、郵便局長を継いだ直樹さんの父、運さん(1906～88)の産着姿などが写っていた。1891年、地元産のレンガを積んで築いたJR山陽線の直樹さんによると、静太さんが現役時代に趣味で撮影。運さんの死後、地区中心部にあった同郵便局隣の桜間家の蔵を解体して見つかり、家族が同公民館に寄託したという。直樹さんは所用で帰郷した10日、同公民館を訪れて祖父の原板を確認し、初めて見た。大事に残し、有効に生かしてほしいと懐かしんだ溝口隆一館長(68)は「貴重な品であり、桜間さんとも相談して保管方法を考える」と話していた。

写真展は同地区の歴史再発見に取り組む住民グループ「Mプロジェクト協議会」(宗像和夫会長)が主催。原板50点、原板をデジタル処理して復元した写真などを展示する。入場無料。問い合わせは三石公民館(0869・62・0811)。